

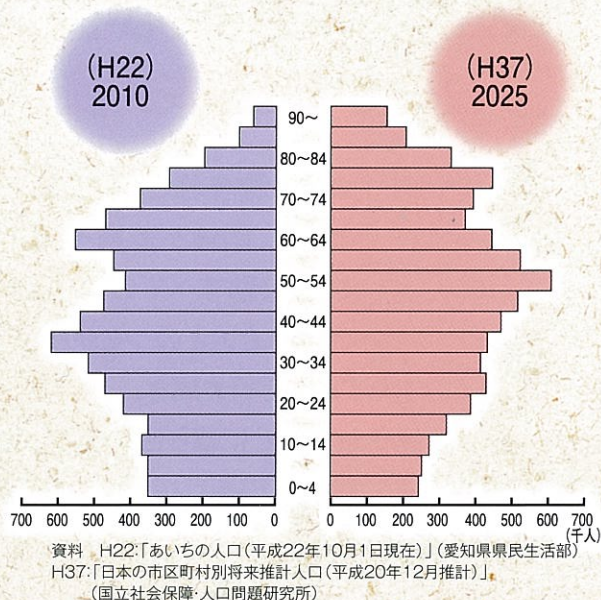
健康福祉分野に影響する社会の動き

1 超高齢社会の到来

- ◆平成27年には、
約4人に1人が
65歳以上の高齢者に
- ◆平成37年には、
約6人に1人が
75歳以上の
高齢者に



本県の人口ピラミッド(男女計)



2 進む少子化と人口減少社会の到来

- ◆平成22年の合計特殊出生率は1.46
(昭和46年は2.28)
- ◆今後人口は減少に転じ、平成37年には、
生産年齢(15歳~64歳)2.3人で
高齢者1人を
支える社会に
(平成22年は
3.2人で高齢者
1人を支える社会)



※ 合計特殊出生率
1人の女性が一生の間に
生む子どもの数の平均数

5 健康福祉ニーズの多様化・複雑化

- ◆働き方・家族形態・
価値観の多様化に
よるニーズの
多様化・複雑化



3 家庭の変化

- ◆高齢者のみの世帯やひとり親
世帯の増加
- ◆家族のつながりの希薄化

6 安心を支える社会システムへの信頼感の低下

- ◆勤務医不足により約2割の病院で
診療制限
- ◆毎年1,500人前後が自殺
- ◆新型インフルエンザのまん延 など

4 地域社会の変化

- ◆地域のつながりの希薄化
- ◆NPOなどによる
支え合い活動の
活発化



7 地方分権の進展

- ◆国・県・市町村の
役割分担の見直し
- ◆市町村主体の
健康福祉サービス
の提供
- ◆多様な民間主体との協働

